

冬どりレタスにおけるべたがけ資材の利用

農業研究センター 天草農業研究所

研究のねらい

近年、葉根菜類を中心とした野菜栽培において“長繊維不織布”“割繊維不織り布”といったべたがけ資材の使用が増加している。その使用目的の多くは、べたがけ資材の保温効果による生育促進や凍霜害の防止である。

ここでは、ポリプロピレンの長繊維不織布を供試し、低温時に結球期を迎える2月どりレタスでのトンネル内べたがけの効果と、適正な被覆期間について検討した。

研究の成果

1. トンネル内べたがけの夜間の保温力(べたがけ内の最低気温－露地の最低気温)は、外気が低いほど大きい傾向があり、露地の最低気温が0の場合には約3の保温効果が期待される(トンネルの両裾を解放した場合)
2. べたがけにより球の肥大が促進され、総収量は増加する。しかし、べたがけ期間が長くなると、葉球の中肋部分の突出(タコアシ)が増加し、秀品率が低下する。この秀品率の低下は、べたがけ期間が短いと、見られないか、見られても比較的小さく、秀品収量は増加する。
3. このように、トンネル内のべたがけには増収効果があり、被覆期間は結球後期から収穫期までの15～20日程度がよい。
4. べたがけによる球の肥大促進効果は、品種により差があり、低温肥大性に優れる品種ほど大きい傾向がある。
5. べたがけにより収穫期は早くならず、むしろ、やや遅くなる傾向にある。
6. 晴天時にはべたがけ内が高湿となり、結球が異常となるので、換気に努める。
7. べたがけにより灰色かび病等の病害が発生しやすい環境となるので、被覆前の防除を徹底する。
8. 普及地域は、県下の冬どりレタス栽培地域とする。

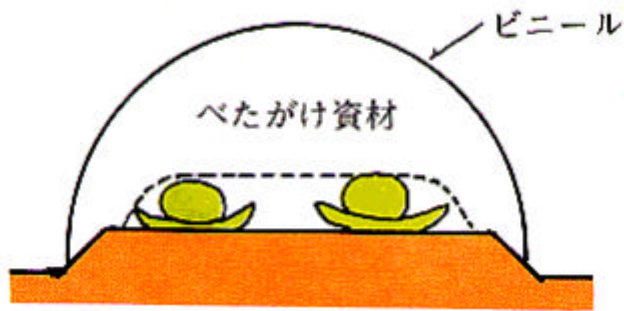


図1 トンネル内べたがけの方法

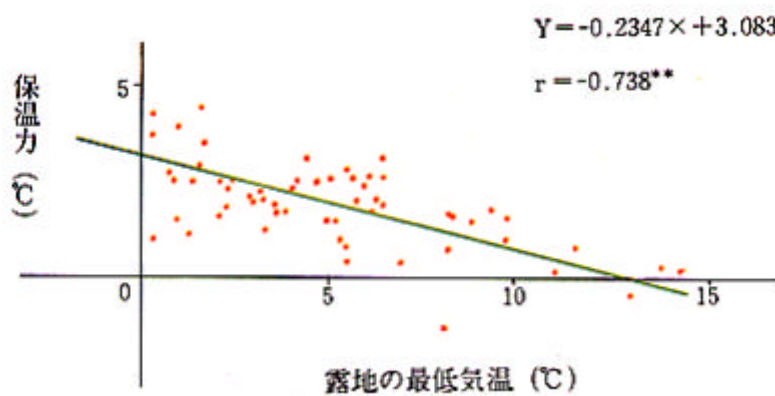


図2 露地の最低気温とトンネル+べたがけの保温力の関係

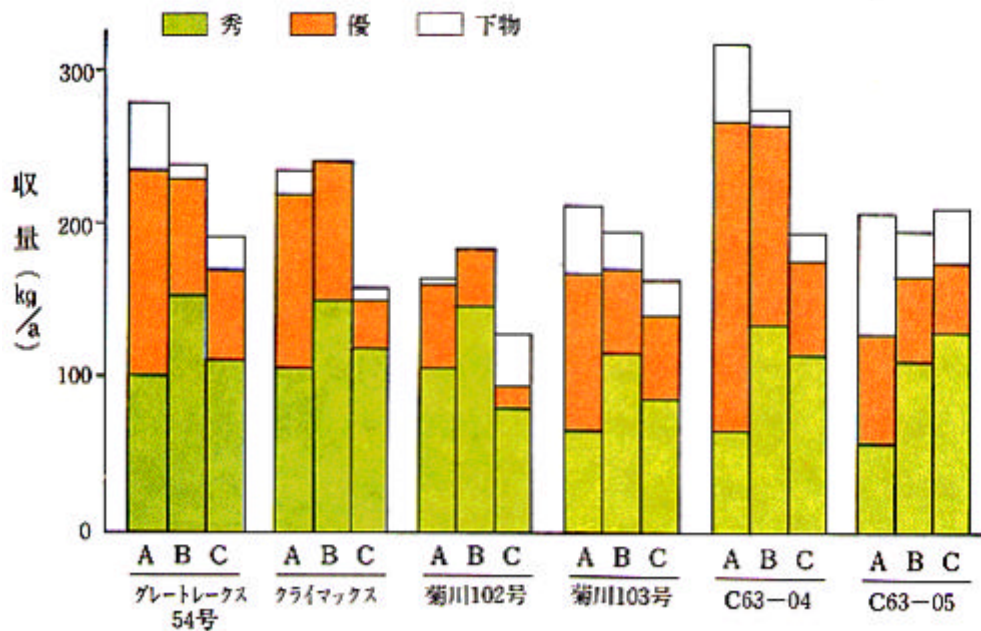


図3 1 a 当たり収量 (平成元年度)

A: 結球初期 ~ 収穫期被覆、B: 結球後期 ~ 収穫期被覆、C: トンネルのみ